

専門研修Ⅰ

発達障がいのある幼児児童生徒の基礎的な理解と対応

～「気づく」から始めよう～

令和6年7月17日（水）、小・中学校、義務教育学校、高等学校、幼稚園、保育所、認定こども園の教師、保育士、保育教諭を対象に、研修会を実施しました。今年度はオンデマンドと参集のハイブリットによる研修を行いました。

講義Ⅰは、オンデマンド動画「特別支援教育の動向」「発達障がいの特性の理解」について、事前に各自で視聴いただきました。

講義Ⅱ以降は参集しての研修としました。

講義Ⅱ・演習では「幼児児童生徒の背景・要因に応じた支援策を考える」をテーマに研修を行いました。実際に持ち寄った各事例について、3人グループで、気になる行動に関する背景・要因を探り、支援策を考えました。受講者からは、「複数の視点から子どもの気になる行動とその解決策を話し合うことができた。」「できないことよりできることに着目していくことの大切さを学んだ。」「それぞれの子どもたちそのものをじっくりと見ていく視点の重要性を理解し、実践していきたいと思えた。」などの感想が寄せられました。



講義Ⅲ（公開講座）では、発達障がい者支援センターの伊瀬陽子医師から、「医師の立場から学校の先生方に伝えたいこと」について講話いただきました。受講者からは、「教師の関わり方で子どもの生きにくさが改善されるということが分かりやすかった。」「医療現場の話が貴重な話を聞いてよかった。」「“多数派に近づけようとしな” “その子が自分らしく生きる” という伊瀬先生の言葉が心に残った。」などの感想が数多くあげられていました。発達障がいのある幼児児童生徒に対して、教育現場でできることを考える貴重な機会となりました。

